

フランス人浮世絵師ジャクレーと私一学芸員の研究活動から

講話：猿渡顧問



猿渡顧問から、長年の研究対象であるジャクレーについてお話をいただきました。ポール・ジャクレーは1896年にフランスに生まれ、日本で油彩画や日本画を学び、版画家となりました。着物を着てべらんめえ調の日本語を話し義太夫の謡本を手にする姿が写真に残っています。2003年に横浜美術館で「ポール・ジャクレー 虹色の夢をつむいだフランス人浮世絵師」展が、その後、韓国、グアム、フランスでジャクレー展が開催されました。

原三溪の漢詩を読み解く「登日光山」

発表者：福田会員

登日光山

復興業半容歸 一襲空藏舊羽衣 今日試登晃山頂 秋天萬里白雲飛
秋風吹兩野 落日照千山 独立高峯頂 浩歌天地間



福田会員から漢詩分科会の成果報告がありました。この詩は、関東大震災後に三溪が横浜市復興会長の任にあった大正13年か14年の秋に日光を訪れて詠まれたと考えられます。秋の広い空に白雲が飛んでいるという描写に、三溪さんの白雲好きが表れています。質疑応答では、三溪さんは忙しいはずなのに日光に何をしに行ったのか、家康が好きなので日光に憧れていたのではないかと、夕方まで山頂にいたら下山できないので空想なのではないかなど、三溪さんの煙霞癖を巡って議論が盛り上がりました。

猿渡紀代子顧問

フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受章 祝賀の集い

4月9日に当会顧問猿渡紀代子さんがフランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエを受章されたことを祝い、KKR ポートヒル横浜で祝賀会を開催しました。余興として大正14年に作られた復興小唄「濱自慢」と、森林太郎（鷗外）作詞「横浜市歌」と、佐々木信綱作詞「夏は来ぬ」を皆で歌うなど、開港からフランスまで思いを馳せる楽しい会となりました。

